

# 第6学年 社会科 学習指導案

1 単元名 「世界に歩み出した日本」

2 単元指導計画

時	主な学習内容
1	日本が江戸時代の終わりに結んだ条約により、国民の生活にどのような影響があったのかを話し合い、学習問題を設定する。
2	工場の様子や陸奥宗光について調べ、明治政府の政策による国づくりと条約改正交渉の進展を結び付けて理解する。
3	日清戦争の様子を調べ影響について考える。
4 (本時)	日清戦争の様子と比較して、日露戦争の様子やその後の影響について理解する。
5	日本が朝鮮を植民地にしたことや、条約改正を果たして欧米諸国と対等になったこと、医学などの分野の活躍を調べ、日本の世界への進出と国際的地位の向上について理解する。
6	産業の進展によって起こった社会問題やさまざまな運動について調べることを通して、国民生活が変化したことや人々の民主主義への意識が高まったことを理解する。

3 本時について (4/6)

- (1) ねらい 日露戦争について調べることを通して、日清戦争と比べて大きな犠牲を払ったことや、多額の戦費を使ったことに気づき、国内には結果への不満が残ったが、欧米諸国に日本の力を示すことができたことを理解することができる。
- (2) 評価規準 日露戦争の様子や結果から、日本が大きな犠牲を払ったことや多額の戦費を使ったことに気づき、国内には結果への不満が残ったが、欧米諸国に日本の力を示すことができたことを理解している。

(3) 学習展開

過程	学習活動	留意点
導入	1 前時までの学習を振り返るとともに、「朝鮮をめぐる日本、ロシア、中国」の資料から気付いたことを交流する。 ・日本は清に勝利して、領土や賠償金を得た。 ・今度は、朝鮮をめぐるロシアと戦争になった。	【ICT 活用の工夫】 ・学習内容を関連付けられるよう大型提示装置で前時の資料を提示する。 ・主体的に資料を活用できるように、事前に資料を児童のタブレットに送信しておく。
	2 課題意識をもつ 日露戦争はどのような戦争だったのだろうか。	
展開	3 予想を交流する ・巨大な国で力の強いロシアが勝ったと思う。 ・日清戦争の賠償金で軍事力をつけた日本が勝ったと思う。	・資料 「二つの戦争での日本軍の戦死者」 「日露戦争の戦場」 「日清戦争と日露戦争の戦費」 「日比谷焼き討ち事件」 ・日清戦争と比較することで、日露戦争がどのような戦争であったのかを捉えられるようにする。 ・ポーツマス条約の資料から賠償金の有無に着目させる。
	4 個人追究 ・日本は、多額の戦費を使っている。 ・日清戦争と比べて多くの犠牲者が出ている。	
	5 調べたことを交流する ・日清戦争と比べ、多額の戦費や多くの戦死者を出していることから、日本は大きな犠牲を払っている。 ・日清戦争と比べると、戦費や戦死者が圧倒的に多いから、規模も大きいし、日本は苦戦したと考えられる。 【なぜロシアに勝利したにも関わらず、日本国内では不満の声が高まったのだろうか。】 ・賠償金を手に入れることができなかったから。 ・思い税に苦しみながらも、勝ったら賠償金がもらえると思っていたのに賠償金がもらえなかったから。	
終末	6 まとめ 日本は大きな犠牲を払いながらもロシアに勝利した。賠償金がもらえないことで、国内では不満が高まったが、ロシアに勝利したことで欧米諸国に日本の力を示すことができた。	【ICT 活用の工夫】 ・児童のまとめをモニターに映すことで視覚的に捉えさせ、教師が具体的に価値付ける。